「CE の視点から見た内視鏡手術関連機器の保守管理」

岐阜県立多治見病院

市橋 孝章

近年、内視鏡手術で使用するデバイスの多くは従来と比較し、より繊細な手術に適した形状と優れた止血能力を有するなど飛躍的に性能が向上した。その結果、より低侵襲手術も可能になり、周術期に患者へ与える負担は軽減されるようになったと考える。

しかしながらデバイスが進化する一方、取り扱い方法や管理方法が複雑になり、人為的に発生するトラブルも経験する。昨今では、これらのトラブルに対し CE が対応する施設も多くあるが、重要なことは発生した事象に対し迅速に対応することが優先だが、事象に対し他職種で向き合い、情報を共有しチームで補完し合うことが未然の対策に繋がると考える。

今回の発表では、エネルギーデバイスを含めた内視鏡手術関連機器の準備や操作、注意点などを CE の視点より新たに改訂した情報を説明させていただくが、今後業務の共有と標準化を行うツールとして、今回改訂したマニュアルを参考に各施設メディカルチームの連携を築いていただきたい。

JSES2018